



農業にチャレンジしたい みんながワクワクなれる

明日への扉

No.9



Tatsumi Oshira

大平 龍美さん

昭和56年鹿屋市生まれ。鹿屋農業高校卒業。実家(南国フラワープランツ)に、平成18年から就農。今年3月に、将来の農業を支える若者が参加して行われた、第54回全国青年農業者会議において、最高賞となる「農林水産大臣賞」を県内から初受賞。(34歳)



花や野菜の苗が栽培されている一角にバナナやパイナップルなど南国の果物が育つ「トロピカルランド」と名付けられた場所がある。大平さん親子の「全ての人がワクワクする農業」を感じるこの出来る場所だ！

私は大浦町で、両親、妻とともに花と野菜の苗を栽培しながら、農場での直売を中心に種苗店やホームセンター等へ卸売りをしています。両親が「消費者に良い物を直接見定めて買って欲しい」との思いで始めた生産直売の農業の可能性に魅かれながら、これなら「もうかる!」とも直感。又、休まず多忙に働く両親に少しでも楽をさせてあげたいという思いもあり、平成18年に就農しました。

就農を期に入会した鹿屋農業青年クラブも今年で10年が経過して最年長となり、これまで頑張ってきた農業に対する自分の思いを発表したいと大会に出場しました。地区・県・九州大会と勝ち上がり、最終的に今年3月に東京で行われた第54回全国青年農業者会議の意見発表の部において、最高賞となる「農林水産大臣賞」を頂きました。

タイトルは「七光のままでは終らない」バラの街かのやを花の街KA・NO・YAへ」。農業青年クラブ仲間との飲み会の中で出た「所詮オレらは親の七光」という一言をきっかけに見出した将来の目標について発表しました。

私は、2代目で「親の七光」です。皮肉に聞こえる言葉ですが、私にとっては、親を認められている証拠

であり最高の褒め言葉です。ただ、このままでは終わらないという強い思いも持っています。私は、親の確立してきたことを上手く利用しながら、新しい事にチャレンジしようと思っています。親の七光^{ナノヤ}の光。つまり、八つ目の光を輝かすことが私の夢です。9年間続けている趣味のフラワーアレンジメントを生かし、苗の生産直売と共に切花の小売も始めます。ただの小売ではなく農場に草花中心の花畑を作り、お客さんに散策しながら花刈りを楽しんでもらいます。そして収穫した花で、私なりの私にしか作れない花束やアレンジメントを製作して、子どもから年配の方まで、より多くの人に花の魅力を伝えていきたいと思っています。

そして、バラの街かのやを世界に誇れる花の街KA・NO・YAと呼ばれるような街づくりの土台を築きたいですね。これが私の夢であり、私の目指す+1の光です。

また、両親と協力しながら、やる人も見る人もワクワクするような農業を目指し、現在「Tropical Land(トロピカルランド)」を開拓中です。バナナを中心にトロピカルフルーツを栽培しています。是非一度、私の農場へ遊びに来てください!!